様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 １４ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７１０３０１

研究課題名（和文）ポスト・コンフリクト期イラクにおける国家建設の包括的研究

研究課題名（英文）Comprehensive studies of state building in post-war Iraq

研究代表者
山尾　大（Yamao, Dai）

九州大学・比較社会文化研究科（研究院）・講師

研究者番号：８０５９８７０６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,100,000円、（間接経費）　930,000円

研究成果の概要（和文）：2003年のイラク戦後のイラクにおける国家建設について、民主化とガバナンスの定着、国際的な影響、和解政策の進展、治安維持能力の回復、経済といった側面から包括的に解明した。その結果、極めて重大な政治局面において、政治家個人が有するインターナショナルなネットワークが決定的な役割を果たすこと、民主化の導入が紛争を拡大させたこと、治安や和解政策が政治道具化したことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This research analyzed process and politics of the state building in post-war Iraq focusing on various aspects such as democritization, governance, influence of external factors, reconciliation, economy, and security.As for the external factors in general, those of Iranian regime in particular, this research clarified these were crucial especially in the political crisis. In addition, it also clarified that democratization led by the external forces brought about new conflict in Iraq, and policies of reconciliation became a tool of political conflicts. This paradox is supposed to be a crucial factor to understand a dynamism of post-war state building in Ira.

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：イラク　国家建設　紛争

１．研究開始当初の背景

2003 年のイラク戦争によって、イラクではバアス党権威主義体制から民主主義体制へと転換し、それまで亡命していたイスラーム主義政党が政権党となった。

戦後イラクを扱った研究は比較的多数存在する、しかし、戦後の紛争や内戦の要因を民族や宗派の対立に求める研究や、外部からの制度の押し付けに着目した研究が大半で、いずれもイラク戦争後の民主化プロセスと紛争の表面的な記述に終始しているにすぎなかった。

それゆえに、政権党であるイスラーム主義政党の政権運営メカニズムや、ポスト・コンフリクト期イラクの国家建設の複合的な問題点を、実証的かつ多角的・包括的に明らかにした研究は、皆無となっている。

２．研究の目的

こうした状況をふまえ、本研究では、ポスト・コンフリクト期イラクにおける国家建設のダイナミズムと問題点を、5 つの視点（トランスナショナルなネットワークが内政に与える影響、民主化とガバナンスの定着、国民和解政策、治安問題、経済復興）から包括的に明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

（１）メモワールなどの一次資料を活用した。特にトランスナショナルなネットワークが内政に与える影響については、イスラーム主義政党が亡命期に出版した機関紙、内規、パンフレット、シーア派宗教界の資料などの一次資料を解析することによって解明を試みた。現在の有力政治家のメモワールは、複雑な政党政治や周辺国との関係を解明するうえで、おおいに活用できた。

（２）イラク国内紙のデータベースを構築した。現在、日刊紙としてイラク国内で刊行されている新聞は、そのほとんどがインターネットを通して閲覧可能となっている。したがって、これまで進めてきた日刊紙のデータベース化作業を継続し、戦後の国家建設にかかわる情報をできるだけ包括的に収集した。オンラインで入手不可能な新聞などの資料については、ファーレフ・ジャッバール所長（在レバノン、イラク戦略研究所）との連携で、国内の新聞、アーカイヴスへアクセスした。さらに、BBC Monitoring Service などの国際メディアアーカイヴも利用した。

（３）関係者への聞き取り調査を行った。国民和解政策の内部事情や治安問題など、公的資料には反映されにくい情報の収集については、イラク国内の関係者、研究者への聞き取り調査を行う。ただ、首都バグダードでの調査は治安上困難であるため、隣国や英国などで関係者、および研究者への聞き取り調査を行った。

４．研究成果

（１）トランスナショナルなネットワークが内政に与える影響については、政権党となったイスラーム主義政党の宗教的なネットワークに着目し、亡命期のネットワークが戦後イラクの内政にいかなる影響をあたえているのかという点を解明し、イスラーム主義政党の政権運営メカニズムを明らかにするとともに、そのネットワークが国家建設全体に与える影響を詳細に分析した。

その結果、現政権の中枢を担うイスラーム主義政党は、過去の亡命期に活動の中心を置いたイランからの影響を、現在もなお大きく受けていることが明らかになった。ただし、その影響は普段は非常に目に見えにくく、極めて重大な政治決定において、突如として露呈する。その背景には、政治家の個人的なトランスナショナルなネットワークが機能していることが明らかになった。

（２）民主化とガバナンスの定着については、イスラーム主義政党を中心とする各政治勢力がどのように制度を構築・定着させていったのかを明らかにし、亡命期のイスラーム主義政党の政策対立が、ガバナンスの定着においていかなる政治対立に帰結しているのかを解明することを目指した。

その結果、民主化の規範については、広く定着しつつあり、その制度も非常に分権化の傾向が強いものとなっていることが明らかになった。ただし、戦後イラクで国家建設を開始したごく初期の段階で民主化政策を開始したことが、政治対立や治安の悪化をもたらしたことも明らかになった。言い換えると、民主化こそが紛争の拡大をもたらしたということである。

（３）国民和解政策については、「国民和解を設定することで生じる問題」、つまり国民和解という政策を各政党がどのように利用して権力闘争を行っているのかという点、「国民形成の問題」、つまり国民和解によってイスラーム主義政党がイラク国民の範囲をどのように規定しようとしているのかという点を解明した。

その結果、国民和解政策には力を入れられているものの、他方、わかいをめぐる政策は、政治対立に利用され、次第にその道具となっていったという事実も明らかになった。民主化が紛争をもたらしたように、和解も対立をもたらすという逆説が明らかになったのである。

（４）治安問題については、警察機構や国軍などの公的治安機関をいかに形成しているのかという問題、2007 年後半以降に治安と秩序の回復に貢献した非公的治安機関（部族を中心とする覚醒評議会）の実態解明、およびそれが後の国家建設に与える影響、の 2 点に

着目して治安部門の改革を精査した。
　その結果、米軍を中心に、量を拡大することに主眼をおいた軍と警察の再建政策は、極めて能力の低い軍や警察を創り出したことが明らかになった。その穴を埋めるように、部族が組織化を始め、米軍も部族を支援するようになった。だが、その部族の覚醒評議会は、次第に武力を背景に政治参加を進め、一大勢力に成長した。それが秩序の混乱に繋がるというパラドクスも浮き彫りになった。

（５）経済復興については、経済復興（政策）がイスラーム主義政党を中心とする政府の政権運営メカニズムにおいてどのように利用されているのかという点に着目し、国家建設と経済復興の相互関係を解明した。
　その結果、戦後イラクでは、石油を中心に経済復興政策が進められ、次第に国家が経済を管理する仕組みが再構築されていったことが明らかになった。言い換えるなら、大きな国家が再配分政策を通して経済を発展させるという構図ができあがったが、旧体制と比較して行政機構が脆弱であるため、一貫した再配分政策ができないという問題も浮き彫りになった。

（６）以上の分析をまとめて、戦後イラクに政治プロセスについて包括的に記述し、国家建設という観点から、イラク国内の政治アクターのエージェンシーに着目して分析した著書を刊行した（山尾大『紛争と国家建設――戦後イラクの再建をめぐるポリティクス』明石書店、2013 年）。これは、第 17 回国際開発研究 大来賞を受賞した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　11　件）
①山尾大 2014「安定化した政党政治――第 3 回イラク地方県議会選挙の分析」『イスラーム世界研究』（7）, pp. 298-319. 査読あり
②山尾大 2013「和解が生み出した政治対立――戦後イラクにおける排除と包摂のポリティクス」佐藤章編『和解過程下の国家と政治――アフリカ・中東の事例から』アジア経済研究所, pp. 97-126. 査読あり
③YAMAO, Dai. 2013. “Foreign Impacts Revisited: Islamists’ Struggles in Post-war Iraq”, *World Political Science Review*, 9(1), pp. 155-172. 査読あり
④山尾大 2012「米軍撤退後イラクの政治対立と合従連衡」『中東研究』（515）, pp. 55-68. 査読無
⑤山尾大 2012「外部介入によるイラクの民主化――戦後民主体制の運営」酒井啓子編『中東政治学』有斐閣, pp. 95-108. 査読無
⑥ YAMAO, Dai. 2012. “Iraqi Islamist Parties in International Politics: The Impact of Historical and International Politics on Political Conflict in Post-War Iraq”, *International Journal of Contemporary Iraqi Studies*, 6(1), pp. 27-52. 査読あり
⑦山尾大 2012「“ハイジャック”された『アラブの春』――サドル派の政策転換とイラク政治の動態」『中東研究』(513), pp. 82-93. 査読無
⑧ YAMAO, Dai. 2012. “Sectarianism Twisted: Changing Cleavages in the Elections of Post-war Iraq”, *Arab Studies Quarterly*, 34 (1), pp. 27-51. 査読あり
⑨山尾大 2012「イラク覚醒評議会と国家形成――紛争が生み出した部族の非公的治安機関と新たな問題（2003～2010 年 3 月）」佐藤章（編）『紛争と国家形成――アフリカ・中東からの視角』アジア経済研究所, pp. 101-136. 査読あり
⑩山尾大 2011「反体制勢力に対する外部アクターの影響――イラク・イスラーム主義政党の戦後政策対立を事例に」『国際政治』（166）, pp. 142-155. 査読あり
⑪山尾大 2011「曖昧なナショナリズムが生んだイラク政治の『分極化』――2010 年 3 月 7 日イラク国政選挙の分析」『イスラーム世界研究』4（1-2）, pp. 347-369. 査読あり

〔学会発表〕（計　5　件）
① YAMAO, Dai. 2013. “From Mesopotamian Iraq to What? The Transformation of “Official Nationalism” after the Iraqi War in 2003”, International Conference, Iraq 10 years on (American University in Cairo, June 3-4, 2013).
②山尾大 2012「外部介入がもたらした民主化――イラク戦争と残存する権威主義体制の遺産」『九州史学会』九州大学（2012 年 12 月 9 日）
③山尾大・浜中新吾 2012「イラクにおける政党支持構造とその変容――中東諸国とイラクにおける世論調査の計量分析から」『日本政治学会』九州大学（2012 年 10 月 6 日）
④YAMAO, Dai. 2011. “A Hijacked Arab Spring in Iraq: with Special Reference to the Sadr Movement”, 10th Conference of the International Centre for Contemporary Middle Eastern Studies, Arab Springs: Causes and Consequences (East Mediterranean University, North Cyprus, 12-14 December 2011).
⑤ YAMAO, Dai. 2011. “National

Reconciliation as a Tool of Political Struggles: An Inquiry into Nation Building in Post-War Iraq", *World International Studies Committee, Third Global Studies Conference* (University of Porto, Portugal, 18 August 2011).

〔図書〕（計　4　件）

①山尾大 2013『紛争と国家建設――戦後イラクの再建をめぐるポリティクス』明石書店, 304 ページ.

②酒井啓子・吉岡明子・山尾大（編著）2013『イラクを知る 60 章』明石書店, 368 ページ.

③ YAMAO, Dai.2012. *Tārīkh al-Aḥzāb al-Islāmīya fī al-'Irāq: al-Taḥawwul fī Ḥizb al-Da'wa, 1957-2009* (Translated by Fallāh Ḥasan al-Asadī and Maḥmūd 'Abd al-Wāḥid Maḥmūd). Baghdad: Bayt al-Ḥikma, pp. 351.

④山尾大 2011『現代イラクのイスラーム主義運動――革命運動から政権党への軌跡』有斐閣, 364 ページ.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

山尾　大（YAMAO, Dai　　）

九州大学・大学院比較社会文化研究院・講師

研究者番号：80598706

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：